



# つよい子

令和7年度 学校だより

第10号

余市町立大川小学校

令和7年12月25日

- 【令和7年度 重点目標】
- ◎ 『伝わること』を意識して生き生きと表現する子の育成
  - ◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

## 「幸せ」を 自らの手で

校長 大山 敏広

明日から冬休みです。

暑さ対策に始まった2学期でしたが、気がつけば外は雪景色。84日間の登校日と共に季節は大きく姿を変えました。

- ◆今週のはじめ、登校してきた6年生児童に「いよいよ2学期最後の1週間ですね」と声をかけると、「(2学期は)今まで以上にあっという間でした」という答えが返ってきました。その言葉を聞いて、私は「それだけ毎日が充実していたのですね」と伝えました。学習や行事、自分の仕事、友だちとの関わり、それらひとつひとつに一生懸命取り組んできたからこそ、時間の経過が早く感じられるのだと思います。
- ◆終業式では、夏休み前と同様に以下の内容を子どもたちへ話しました。

守る	… 何より自分の命を守る。 ルールやマナーを守る。
つける	… けじめ(めりはり)をつける。 楽しむことも学びも大切に。
働く	… 積極的に家の仕事を手伝う。

- ◆年末年始は、日本ならではの風習や習慣に触れながら家族や親戚とゆっくり過ごせる特別な時間だと思います。日常の生活に潤いと非日常のわくわく感をもたらすイベントも盛りだくさんのことでしょう。楽しむときは、思い切り楽しむ。その代わり、その日にできなかった学習は、別の日にしっかりと取り戻す。「文字に触れ(ゆっくり読書もよいですね)、考える時間をつくる」ことをルーティーンとしながら、『めりはりを効かせた冬休み』にしてほしいと思います。
- ◆家の手伝いもどんどんさせましょう。「家族の役に立った。自分は家族に必要とされている」ということを実感させてくだ

さい。見ていると“はらはら”してしまうこともあると思いますが、様々な手伝いが手先を鍛え、脳を鍛え、身体を鍛え心を鍛えることにつながります。

そして、手伝いが終わった後には、「助かったよ。ありがとう。」とねぎらい、人の役に立つことの喜びを実感させてあげてください。

学習も手伝いも、“成し遂げた喜び”は、何にも代え難いものです。

- ◆現代の生活に欠かせないメディアやゲーム、スマートフォンとの付き合い方についても考える機会を与えてほしいと思います。便利で楽しいものだからこそ、使う時間や目的を自分で決め、コントロールすることが大切です。**自分を律し、自分を管理する力やその経験は、「幸せを自らの手でつかむ」ための大きな財産**になると考えます。

- ◆お正月はひとつの区切りとして昔から大切にされてきました。受け継がれてきたこの時期の風習には、「感謝する心を持ち、心を整え、新たな気持ちでスタートする」ための知恵や願いが込められていると言われます。

家族とのふれあいや日本の伝統に触れながら、自分自身を見つめる貴重な冬休みとし、3学期にはまた新たな気持ちで元気に登校してくることを願っています。

1年間、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

令和8年も子どもたち、保護者・地域の皆さまにとってより良い年となりますよう御祈念いたします。皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください。

